

都市環境 デザイン学科

都市環境プロジェクト実習
マニュアル集

2006年度後期

目 次

シラバス	1
授業の進め方	2
テーマについて	3
アドバイザー教員連絡先	4
班・名簿	5 ~ 6
学外訪問の注意事項	7 ~ 9
中間発表報告会 発表方法	10
中間報告 概要の書き方	11
最終報告会 発表方法	12 ~ 14
最終報告書について	15 ~ 16
最終報告書サンプル	17 ~ 19
別紙 1 グループ報告書 様式	20
別紙 2 個人報告書 様式	21
別紙 3 現地調査報告 様式	22
別紙 4 分担表 様式	23 ~ 24

平成18年9月25日

平成18年度 都市環境プロジェクト実習 (必修: 2期, 月曜1・2限)

授業概要

都市環境デザイン学科1年生の導入教育は、前期の都市環境プロジェクトと後期の都市環境プロジェクト実習（以下、プロジェクト実習と呼ぶ）で構成されています。プロジェクト実習は、問題を見出し、その解決策を提案するエンジニアリングデザイン能力を養成する科目の一つです。1チーム6～8名に分かれて、それぞれの調査研究テーマを決めます。各チームの調査研究テーマは、地域の環境関連問題の中から、現場の有無、難易度などを大学側が考慮して用意したテーマの1つを扱います。そのテーマでの最終的な検討課題の絞込みは学生に任せます。

調査研究活動は学生達の自主的な学習活動と位置づけ、必要最低限のマニュアルのもと、できるだけ現場において調査研究を行います。また、中間報告会を開催することにより、学生達自身が進捗状況を確認できるようにします。調査研究報告会は、全チームが口頭発表し、教員・外部アドバイザー・学生によって評価します。学生の積極的な質疑は成績としても評価します。また口頭発表の他にポスターと報告書を作成します。ポスターはポスターセッションで発表します。これらを別途評価し、3部門の総合評価も行います。

学習到達目標

- 1) 問題点を明らかにする調査方法を組み立てることができる。
- 2) インタビューを行って疑問点を解消することができる。
- 3) チームワークによって、プロジェクトを遂行できる。
- 4) 調査結果を基にして、問題解決に繋がる提案を行うことができる。
- 5) パワーポイントやポスターを用いて調査研究結果を分かりやすく報告することができる。
- 6) 調査研究結果を分かりやすい報告書としてまとめることができる。

授業計画

第1回	9月25日(月)	ガイダンス、各チームのテーマ選定と調査計画の立案とその報告
第2回	10月2日(月)	調査研究活動(1)とその報告
第3回	10月23日(月)	調査研究活動(2)とその報告
第4回	10月30日(月)	調査研究活動(3)とその報告
第5回	11月6日(月)	調査研究活動(4)とその報告
第6回	11月13日(月)	調査研究活動(5)とその報告
第7回	11月20日(月)	中間報告会(パワーポイントによる口頭発表)
第8回	11月27日(月)	調査研究活動のまとめ(1)と報告
第9回	12月4日(月)	調査研究活動のまとめ(2)と報告
第10回	12月11日(月)	調査研究活動のまとめ(3)と報告
第11回	12月18日(月)	調査研究報告会(パワーポイントによる口頭発表) ポスターセッション(ポスター展示による発表)
第12回	12月25日(月)	報告書の最終調整と提出
第13回	1月15日(月)	各部門の評価と総合評価の発表
第14回	未定	予備日

成績評価

調査研究活動の貢献度60%，報告会の貢献度20%，ポスター及び報告書の貢献度20%の総合評価

都市環境プロジェクト実習（1年後期）について

後期に開講される都市環境プロジェクト実習は、前期の都市環境プロジェクトで学んだ内容を参考にしてテーマを一つ決め、6～8人でチームを作つて調査し、まとめて発表する科目です。

チームは、AAセミナーのメンバーで編成することにします。

実習の概略は、次のとおりです。

調査テーマを決定する。後期の履修ガイダンス時に調査テーマの一覧を示しますので、そこから調査テーマを選んでください。このとき、他のチームとテーマが重ならないように調整します。

調査計画を立てて報告する。このとき、役割分担も決めます。

調査を実行する。各テーマには、アドバイザー教員（別紙参照）がいますので、必要に応じて教員を訪問し、調査方法についてのアドバイスを受けて下さい。また、学内のPCによるインターネット調査だけでなく、できるだけ学外調査を実施します。

調査結果をまとめる。

中間発表(パワーポイントによる口頭発表)を行う。

調査結果を基にして、調査テーマに対するチームの意見をまとめる。

調査結果の報告（パワーポイントによる口頭発表）を行う。

ポスター（A1サイズ）を作成して、ポスター展示と説明を行う。

報告書を作成し、提出する。

担当者（大東、堀内、酒造、鷺見）

都市環境プロジェクト実習（1年後期）のテーマについて

実習テーマ

アドバイザー教員

-
1. 住宅地の道路を造るときに必要なことを考えてみよう。 舟渡先生，嶋田先生
 2. 家庭から出た資源ゴミ，不燃ゴミ，可燃ゴミの処理方法について考えてみよう。 坂部先生，大東先生
 3. 大規模地震が起こることを想定して，ライフライン（電気，ガス，上下水道）を確保するための対策について考えてみよう。 事口先生，酒造先生
 4. 広域地盤沈下を止めるための対策と地下水の有効利用について考えてみよう。 大東先生
 5. 中部国際空港(セントレア)を建設する際に行われた環境影響評価(環境アセスメント)について考えてみよう。 坂部先生，大東先生
 6. 交通渋滞を緩和するための対策について考えてみよう。 舟渡先生，嶋田先生
 7. 自動車の走行によって発生する騒音や振動を減らすための対策について考えてみよう。 舟渡先生，嶋田先生
 8. 名古屋市内を流れる堀川の水質を悪化させている原因について調べて，水質を改善するための対策について考えてみよう。 堀内先生
 9. 土壤や地下水の汚染に対する最適な浄化対策について考えてみよう。 棚橋先生，大東先生
 10. ヒートアイランド現象を緩和する対策について考えてみよう。 下島先生
 11. 建設材料のリサイクルの方法について考えてみよう。 木全先生
 12. 各種建物や道路・橋・ダム他，公共構造物を長持ちさせるための対策を考えてみよう。 酒造先生，水澤先生
 13. 都市域で起きた水害の防止対策について考えてみよう。 鷲見先生
 14. 藤原干渉を保全する対策について考えてみよう。 長谷川先生，大東先生
 15. 都市域で森を作る方法について考えてみよう。 長谷川先生，大東先生

は学外の教員

* 各チーム（11チーム）が、重複しないようにこれらの中からテーマを選ぶ。

アドバイザー教員（学科教員）の連絡先

学内のアドバイザー教員に質問等がある場合には、下記の連絡・相談の手段がある。また、現地調査で当日時間内に来学して報告できない場合には、下記の学科掲示板およびE-mailを利用した報告を許可する。報告の形式については、別紙を参照すること。

研究室訪問：表1の研究室へ。オフィスアワーの時間帯の訪問が望ましい。その他の時間も、在室時の訪問や事前に連絡調整してからの訪問も積極的にしてよい。

電話：052-612-5571（学科代表番号、教員へ中継してもらう。9:00～17:00）

E-mail：表1を参照のこと。

学科掲示板（質問用紙）：<http://godos2.daido-it.ac.jp/Students/title0.asp?ASPT=2>

この入り口から、「06生以降」「デザインマネジメント」「都市環境プロジェクト演習」を選び、「質問・意見」ボタンから入力すること。利用方法がわからない場合には、入学生ガイダンス時に配布された、「新入生の手引き」の「オンライン授業サポートの手引き」10ページ以降を読むこと。

表1 学内教員の連絡先とオフィスアワー

教員名	白水校舎 研究室	E-Mail	オフィスアワー
事口壽男（ことぐち）	4220	koto0422@fs02.daido-it.ac.jp	月・5
水澤富作（みずさわ）	4210	mizusawa@fs02.daido-it.ac.jp	火・木の 12:15-12:50
酒造敏廣（みき）	4211	tmiki@fs02.daido-it.ac.jp	月・5, 金・5
大東憲二（だいとう）	4214	daito@daido-it.ac.jp	月・5
棚橋秀行（たなはし）	4226	tanahashi@daido-it.ac.jp	火・3
木全博聖（きまた）	4221	kimata@daido-it.ac.jp	月・5
下島栄一（しもじま）	4223	shimoji@daido-it.ac.jp	月・5
堀内将人（ほりうち）	4207	horiuchi@daido-it.ac.jp	月・5
鷺見哲也（すみ）	4212	t-sumi@daido-it.ac.jp	月・火の5限と昼休み
舟渡悦夫（ふなわたし）	4222	funa@daido-it.ac.jp	月・5
嶋田喜昭（しまだ）	4219	shimada@fs02.daido-it.ac.jp	月・5

オフィスアワーとは、研究室を訪問し教員に質問できる時間・制度のこと。
オフィスアワーは、例えば「月・5」は月曜5限のこと。5限は16:20～17:50
その他の時間帯も在室時や、事前に連絡調整しての訪問も積極的にしてよい。

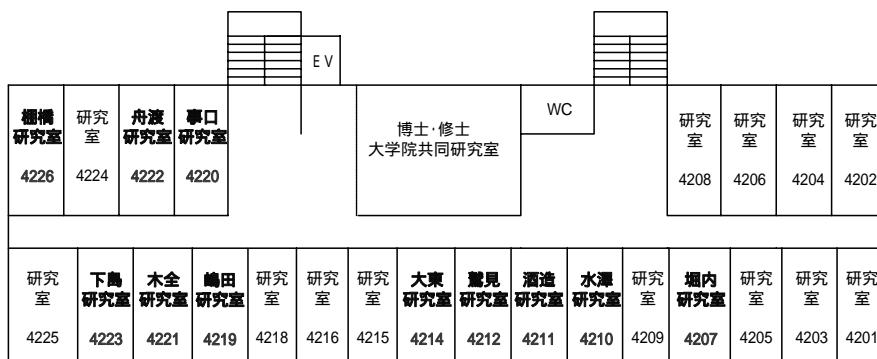


図 白水校舎 4号館 2階：都市環境デザイン学科 教員の研究室

工学部 都市環境デザイン工学科 AAセミナー配属名簿

学籍番号	学生氏名	指導教員	学籍番号	学生氏名	指導教員
C06001	浅井 一也	木全 博聖 講師 4221研究室	C06025	塩島 永大	嶋田 喜昭 助教授 4219研究室
C06002	足立 潤哉		C06026	清水 良二	
C06003	有馬 陽介		C06027	進藤 大輝	
C06004	安藤 司		C06028	神道 拓男	
C06005	安藤 喜紀		C06029	杉浦 晃一	
C06006	稻山 琢也		C06030	鷺見 拓哉	水澤 富作 教授 4210研究室
C06007	猪俣 直之		C06031	清宮 崇寛	
C06008	岩田 純		C06032	高杉 開	
C06009	大口 真臣		C06033	田口 知弘	
C06010	大坪 建哉	棚橋 秀行 助教授 4226研究室	C06034	千坂 篤司	
C06011	大場 一輝		C06035	土屋 友雅	
C06012	鹿島 健司		C06036	坪井 慶英	
C06013	加藤 豊大		C06037	寺西 寛芝	酒造 敏廣 教授 4211研究室
C06014	加藤 三津佳		C06038	内藤 仁善	
C06015	川崎 健太	鷺見 哲也 助教授 4212研究室	C06039	永井 俊喜	
C06016	川端 俊洋		C06040	長島 契	
C06017	木村 文信		C06041	中田 康仁	
C06018	國枝 貴之		C06042	西尾 玲緒	
C06019	國本 貴誠		C06043	野末 英人	堀内 将人 教授 4207研究室
C06020	久保 一季	4212研究室	C06044	幡本 達哉	
C06021	小鹿 裕二		C06045	服部 圭祐	
C06022	小島 史裕		C06046	服部 直也	
C06023	近藤 真		C06047	服部 昌来	
C06024	近藤 勇輝		C06048	浜野 寛太	

学籍番号	学生氏名	指導教員
C06049	早川 英佑	舟渡 悅夫 教授 4222研究室
C06050	早川 恭平	
C06051	久田 拓志	
C06052	平野 雅人	
C06053	平林 健人	
C06054	藤原 一輝	
C06055	細川 聖馬	
C06056	丸山 哲	
C06057	三浦 雅也	
C06058	見田 圭司	
C06059	満仲 淳一	大東 憲二 教授 4214研究室
C06060	宮本 晃輔	
C06061	宮本 拓海	
C06062	村上 淳	
C06063	村瀬 陽太	
C06064	森口 泰有	下島 榮一 教授 4223研究室
C06065	森田 朋弥	
C06066	盛田 将之	
C06067	森村 裕喜	
C06068	安江 宏之	
C06069	山田 真司	事口 寿男 教授 4220研究室
C06070	山村 將晃	
C06071	横田 寛仁	
C06072	吉川 毅	

テーマ・班分け表

(a) テーマ番号順

班名	テーマ(略称)	テーマ番号	アドバイザー教員
棚橋班(2班)	住宅地の道路を造る	1	舟渡・嶋田
事口班(11班)	地盤沈下対策と地下水有効利用	4	大東
水澤班(5班)	セントレアの環境アセスメント	5	坂部*・大東
木全班(1班)	交通渋滞緩和	6	舟渡・嶋田
鷺見班(3班)	堀川の水質悪化の原因と対策	8	堀内
大東班(9班)	土壤・地下水汚染の浄化対策	9	棚橋・大東
下島班(10班)	ヒートアイランド対策	10	下島
酒造班(6班)	建設材料のリサイクル	11	木全
嶋田班(4班)	都市域水害の防止対策	13	鷺見
堀内班(7班)	藤前干渉の保全対策	14	長谷川*・大東
舟渡班(8班)	都市域で森を作る方法	15	長谷川*・大東

(b) 班番号順

班名	テーマ(略称)	テーマ番号	アドバイザー教員
木全班(1班)	交通渋滞緩和	6	舟渡・嶋田
棚橋班(2班)	住宅地の道路を造る	1	舟渡・嶋田
鷺見班(3班)	堀川の水質悪化の原因と対策	8	堀内
嶋田班(4班)	都市域水害の防止対策	13	鷺見
水澤班(5班)	セントレアの環境アセスメント	5	坂部*・大東
酒造班(6班)	建設材料のリサイクル	11	木全
堀内班(7班)	藤前干渉の保全対策	14	長谷川*・大東
舟渡班(8班)	都市域で森を作る方法	15	長谷川*・大東
大東班(9班)	土壤・地下水汚染の浄化対策	9	棚橋・大東
下島班(10班)	ヒートアイランド対策	10	下島
事口班(11班)	地盤沈下対策と地下水有効利用	4	大東

調査研究活動と報告について

1. 調査方法・とりまとめ方法には、代表的なものとして、下記のように分類できる。

- 現地調査（学外に出て、フィールドでの調査）
- 資料調査（学外に出て、資料を集める調査・・・公立図書館・都市センターなど）
- 聞き取り調査（学外に出て、インタビューやアンケートによる調査）
- アドバイザー教員に相談・質問（学内研究室）
- インターネットを利用した調査・資料収集（学内 PC を利用）
- PC 上での資料等の整理のための作業（学内 PC を利用）
- PC 上で、パワーポイント・ワードでのとりまとめ作業（学内 PC を利用）

2. 第2回～第6回、第8回～第10回での調査研究等の作業について

- ・基本的には調査研究活動を自主的に行う。教員は直接には行動を管理しない。
- ・インターネット資料収集やとりまとめのための PC の利用については、月曜日は 4 号館 4 階の PC 室を 8:30～20:30 まで利用できる。（他の日も授業がなければ利用可）。利用のルール（飲食等禁止）を守ること。学生ホールも PC 利用可。
- ・グループの報告義務：毎回、グループの報告が義務づけられている。11:30 に 4101 教室に集まり、その日も含めた 1 週間の活動報告を、グループの代表者が、1 分程度で口頭ですること。報告内容は以下の通り。

この 1 週間（この日も含めて）の活動の概要。

- どういう方法で、どういった内容を調査して、何が得られたのか報告する。（メインの報告）
- 予定・期待していた内容・情報が（どの程度）得られたのか。（遅れているか、問題ないか）
- 今後の調査の方針について、変更があれば変更の理由も含めて述べる。

来週までの活動予定。

- 特に、学外での調査活動を含む場合には、日付・時間、場所等も具体的に報告すること。

・個人の報告の提出義務：別紙の報告書をコピーして記入し、その日(月曜日)の 17:00 までに、白水事務室に提出すること。内容は、上記に加え、この 1 週間であなたが実施したり貢献したりした内容も記すこと。この報告書の Word ファイルは、<http://godos2.daido-it.ac.jp/kpage/sumi/poroj/proj.htm>（本授業のホームページ）からもダウンロード可。

・学外での調査活動について：

- 月曜日の当日に学外で調査活動を行う場合は、11:30 の集合（口頭の報告）は義務づけない。
- 学外調査は実施前の授業報告時までに、日時・場所・面談相手などを知らせること。
- 学外調査(面談)には、TA か学科教員が付き添う。
- 交通費が各グループ 5000 円程度まで使用できる。（精算は事後）
- 個人の報告書の提出は上記の通り、例外なく義務づけられる。月曜 17:00 までに白水事務室に提出。

3. その他

- ・4311 教室は使用しない。
- ・TA が 4 名いる。紹介は初回に行う。主な役割は、テクニカルなサポートと、学外調査の付き添い。

都市環境プロジェクト実習 学外訪問に関する注意

都市環境デザイン学科

学外の機関・企業等への訪問調査には、以下のような手配・手順に準じ、それぞれの注意点に注意すること。

1. アドバイザー教員との相談。

- ・アドバイザー教員のところに行くまでに、以下について決めておくこと。
 - 訪問したい機関・部署（人）の候補を決める。
 - 自分たちの調査したい（聞き取りたい）内容をあらかじめ整理し、その部署（人）でよいかを確認する。何を聞きたいのか、どういう資料を求めるつもりなのか、という点を明らかにすること。
- ・アドバイザー教員と上記の点について相談する。
- ・アドバイザー教員もその時にはその候補でよいか判断できない事が多いので、期限を決めて改めて教員にその判断を聞くことにする。
- ・改めてアドバイザー教員から、候補についての判断を聞き、訪問先を決定する。

2. 訪問先のアポイントの取る時の注意

- ・電話でアポイントを取るときは、くれぐれも失礼のないよう、言葉に注意すること。
- ・最初に何からどう説明すればよいのか、あらかじめ考えて、メモしてから電話すること。
- ・日時の候補を複数用意しておくこと。
- ・電話連絡時の注意

自分の立場・名前を先に名乗り、予定している相手に電話口に出ていただく。

いきなり「 さんお願いします」などと言わないように。

改めて自分の身分・名前を名乗る。

訪問して、お話を伺いたいことをまず先に述べる。

訪問の理由・目的の概略を述べる。

（何の授業でどういった調査をしているのか、その中のどういう事を知りたいと思っているのか）お引き受けいただけるか伺う。

OKであればアポイント（日時調整）をとる。

アポイントは、候補日時を複数、こちらから提示する。（あるいは相手から都合の良い曜日・時間帯を聞いても良い）こちらの望む第1候補になることはないと思った方がよいだろう。

こちらから何名で訪問するのかを伝える。（その機関・企業等で場所を用意いただかないといけない。大勢で伺うことを謝っておくこと。）その上で、訪問する場所を日時・場所を復唱する。

こちら側の連絡先を伝える。

相手に、予めこちらに聞いておきたい事がないか聞く。（何の資料を用意すればよいだろうかと相手は思うはずである。）

最後に、「お世話になりますが、よろしくお願いします。それでは失礼いたします。」など、失礼のないように電話を切る。

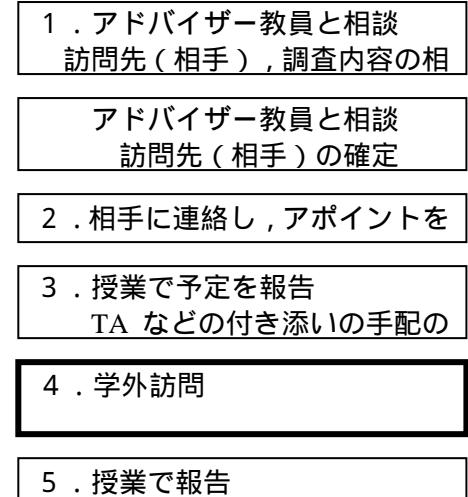


図 学外訪問のフロー

電話での話し方の例：（あくまで例です。）

「お仕事中失礼します。わたくし、大同工業大学都市環境デザイン学科1年生の
…」
「…という授業で　について調査することとなり、その中で　に関連する事につ
いて、そちらに伺ってお話を聞かせていただけないかと思い、お願いのため、お電話しました。」

3. 訪問前授業で計画の説明、付き添いTAの手配

アポイントをとったら、訪問前の授業で訪問の具体的計画を説明すること。また、訪問の際のTA（または教員）の付き添いの手配をしてもらうこと。

4. 訪問時の注意

- ・失礼のない服装で訪問すること。
- ・遅刻など、言語道断である。10分前には現地建物に集合し、時間5分前にはそろって相手先に訪問するのがよいだろう。
- ・言葉づかいに注意すること。
- ・聞いている時に、かならず記録をとること。社会での基本である。記録をしていないと貴重な情報が失われる。
- ・何を聞きたいのか、どういう資料を求めているのかを簡単にリストしたり資料として印刷したものを作りレジュメとするとよい。自分たちのメモ用紙にもなるだろう。

5. 訪問後

- ・聞き取った内容を一度すべてまとめること。
- ・いただいた資料があれば分析を行う。
- ・翌週の授業で、内容について報告すること。



6. 訪問時の諸君らの意識の持ち方について

- ・相手は社会人であり、しかし、諸君を大人扱いしてくれるであろう。諸君は彼ら以上に大人の態度で接しなければならない。
- ・仕事のある人に時間をいただいているという意識を持つこと。諸君らが「授業で来ているのだから」などという都合は相手には関係ない。相手が、「我々の勝手な都合」に合わせてくれている、という立場であることを、よく認識し、謙虚に行動すること。（社会に出れば、そんな立場で多くの相手と対峙することになる。）

以上

2006.11.6

11月20日 中間報告会の発表方法について

都市環境デザイン学科

1. 概要

- ・ 日時：11月20日 9:00～12:00
- ・ 場所：4101 講義室
- ・ 各班の持ち時間：15分（7分発表、8分質疑応答）
- ・ 準備するもの：パワーポイント（スライド8～10枚程度）
2ページの概要（Wordで作成、当日全員に配布する）

2. 準備

- ・ パワーポイントは、当日、USBフラッシュメモリ、CD等で持参する。
- ・ レジュメについては、Wordで作成し、印刷したものを11月17日（金）までに、事務室へ提出する。
- ・ 発表は1名が全部行ってもよいし、数名が交代で行ってもよい。パワーポイント・概要については全員が責任を持って、相談して作成すること

3. 中間報告に向けて

これは、自分達の調査内容・計画について、第三者が理解できるようにプレゼンテーションするトレーニングである。以下の点について、留意すること。

- ・ 最終発表に向けたストーリーの概略を作成し、報告する。
- ・ これまでの調査で得られた内容の概略を盛り込む。
- ・ 学外調査を行った班は、その内容と反省事項についても話す。
- ・ 中間報告以降に学外調査を実施する班は、ストーリーとの関係がわかるようにその計画を報告すること。
- ・ 発表において、通常、1分1枚程度が目処となる。スライドが増えすぎないように注意する。
- ・ 時間厳守である。発表練習は必ず行い、対応すること。

4. 中間報告の構成例：

- ・ タイトルページ（タイトル、班名、メンバ名リスト）
- ・ 調査の目的 何を明らかにしたいのか・整理したいのか
どういうストーリー・シナリオを考えているか？
- ・ 調査内容と調査方法（の概略）
- ・ 各調査内容（調査結果・内容）の報告
- ・ 今後の調査・整理の予定（何を知るために、何の情報が不足しているのか、）
- ・ これまでのまとめ、調査上の問題・課題について（あれば）

以上

18mm

右揃え

タイトルはセンタリング
(横幅の中央に) タイトル: 大同工大周辺における表層土壤の重金属汚染について
1行あけ
1.はじめに MSゴシック11ポイント
当研究室では、5年前から名古屋市南部地区を対象とし、表層土壤の重金属汚染を調査している。本年度は調査地点を大同工大周辺に絞り込み、汚染地点、汚染元素の相関、抽出法の比較および環境基準との比較を通じて、より詳細な汚染評価を実施した。

2.採取場所の選定、採取方法

過去の調査結果を参考にし、大同工大周辺の16地点を採取場所に選定した。採取場所を表1に示す。採取方法は、各地点の土壤を表層から0~1cm, 2~5cm, 10~20cmの深さで、砂場、草のある地点は表層から0~5cmの深さの土を5地点混合採取法で採取した。

3.分析方法

章タイトル: MSゴシック10ポイント

(a)0.1N塩酸抽出法: 抽出液が弱塩酸の為、主として土壤の表面に弱く付着している重金属を抽出することができる。人為的汚染を検出するのに有効とされている。(b)1N塩酸抽出法: 2002年5月に公布された土壤汚染対策法において定義された要措置レベルの公定抽出法、(c)精製水抽出法: 環境基準の公定抽出法。汚染している土壤に雨水が浸み込み、地下水となって流れ出し、飲み水として人が摂取することを考慮して、環境基準が定められている。(d)中性子放射化分析法: 土壤に中性子を照射して元素を放射化し、放出される線を測定する。土壤が含有する元素の全量分析ができる。(a)~(c)の抽出法では、抽出液中の重金属濃度をICP質量分析器(YOKOGAWA,HP-4500)で定量した。測定元素はCr, Mn, Ni, Cu, Zn, As, Se, Mo, Cd, Sb, Pbの11元素である。

4.結果と考察

(a)結果(実験別): Cr, Mn, Ni, Cu, Mo, As, Sb, Pbの8元素は、0.1N塩酸抽出法の元素溶出量よりも酸性度の強い1N塩酸抽出法の元素溶出量のほうが高濃度で検出された。Zn, Se, Cdはその逆の結果が得られた。As, Sb, Pbは0.1N塩酸抽出法の元素溶出量に比べて1N塩酸抽出法の元素溶出量のほうが、それぞれ約90倍、約100倍、約7000倍の溶出量を検出した。土壤について、0.1N塩酸抽出法によるPb溶出濃度のマップを図1に示す。円の直径の大きさが溶出濃度の高さに比例する。(b)考察:(i)基準との比較: 全ての地点で土壤環境基準を下回った。過去の研究結果と同様に白水公園では各元素とも高い濃度を示したが、土壤環境基準を上回る元素はなかった。Pbも最大(の2~5cm)で0.00386mg/lと環境基準の約1/3しか溶出されなかった。の地点(国道23号竜宮インター)は、交通量が非常に多く粉じん濃度が高いため、重金属による汚染も深刻ではないかと予想していたが、土壤環境基準を上回る元素はなかった。

5.おわりに

今年度の結果から、Niと多くの重金属との相関関係が強いことがわかった。それらの視点から排出源を調査するとともに、健康リスク評価や汚染対策についても検討する必要がある。国道23号沿いや白水公園の土壤汚染についてもさらなる調査が必要である。

参考文献

1)大同工大卒業研究概要集(第21号) pp53~54(2001)、2)土壤の有害金属汚染、博友社、pp.32(1991)、3)日本土壤肥料科学雑誌 第59巻 第2号(1988)。

文字数・行数(字送り・行送り)の設定:
字間(字送り): 10.5pt, 行間(行送り): 16pt, 1行文字数: 48字(全角), 1ページ行数: 46

3コマあけ

表1(採取地点)	
産業道路線路横、	白水公園北
産業道路線路横、	白水公園県道36号側
産業道路大江交差点	築地神社
宝公園	竜宮公園
R247公園住宅沿い	竜宮インター ガード下
大江緑地公園	宝生公園
滝春南公園	白水公園北
白水公園すべり台	白水公園南植込み

学籍番号: 半角英文字フォント10ポイント

氏名: MS明朝10ポイント

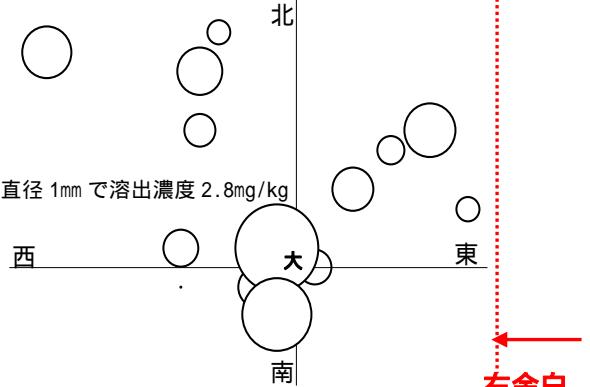


図1 大同工大周辺の表層土壤汚染マップ 15mm

本文: MS明朝10ポイント

(数値等は半角英数字フォント10ポイント)

表4 最大自然界値の5倍を超えた地点と元素

Cr	
地点、深さ	倍数
0~1cm	6.65
0~1cm	8.83
0~1cm	12.00
0~1cm	7.63
2~5cm	9.13
2~5cm	7.42
2~5cm	7.92
2~5cm	6.65
0~1cm	7.53
草の土	5.92
草の土	6.27

Zn	
地点、深さ	倍数
0~1cm	6.15
0~1cm	16.97
0~1cm	15.94
0~1cm	11.37
2~5cm	14.24
2~5cm	8.06
2~5cm	10.95
10~20cm	5.66
0~1cm	5.06
0~1cm	8.30
0~1cm	5.90
2~5cm	7.47
草の土	26.82

Sb	
地点、深さ	倍数
0~1cm	53.2
0~1cm	7.1
2~5cm	18.5
草の土	8.7

表2 要監視項目を超えた元素	
Ni(0.01mg/l)	
深さ	溶出量 倍数
0~1cm	0.0885 8.8
2~5cm	0.0634 6.3
0~1cm	0.0555 5.6
2~5cm	0.049 4.9
草の土	0.0687 6.9
0~1cm	0.0305 3.05

Sb(0.002mg/l)	
深さ	溶出量 倍数
0~1cm	0.0413 20.7
2~5cm	0.01639 8.2
0~1cm	0.00827 4.1
2~5cm	0.0926 46.3
草の土	0.00619 3.1

表3 相間係数が高い元素の組み合せ	
表層のみ	全サンプル
0.9以上 (Ni,Cd)	(Ni,Cd)
0.8以上 (Ni,Cd,Pb)	(Cu,Pb)
(As,Pb)	
0.7以上 (Cr,Ni)	(Cr,Ni,Cd,Pb)
(Cu,Pb)	

下余白

18mm

2006.12.4

12月18日調査研究報告会の発表について

都市環境デザイン学科

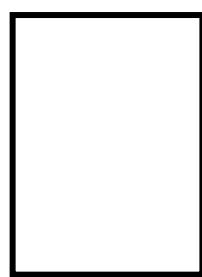
1. 概要

- ・日時：12月18日（月） 9:00～12:00
- ・場所：4101 講義室
- ・各班の持ち時間：10分（8分発表，2分質疑応答）
110分発表の後，50分ポスター発表
- ・準備するもの： 3種類 パワーポイント（スライド8～12枚程度）
ポスター（A1サイズ，1枚）
概要（2ページ，Wordで作成，当日全員に配布する）

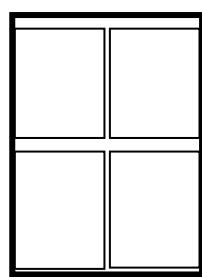
2. 準備と準備物の提出について

ポスターについて

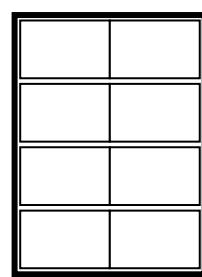
- ・ポスターは，デジタルデータで作成すること。（手書きは不可）
- ・12月15日（金）12:00までに鷺見（4号館4212室）まで，ファイルをUSBフラッシュメモリ等で持参し提出する。鷺見不在時は以下のいずれか方法をとること。
 - 部屋の前にUSBフラッシュメモリを置いておくので，4階PC室か学生ホールのPCで，これにファイルをコピーして戻す。
 - メールで添付ファイルにして t-sumi@daido-it.ac.jp 宛に送る。
- ・使うソフトは，パワーポイントが適当（レイアウトが自由）。
- ・A1サイズ（縦長）に作成する。方法は3つある。
 - 1枚のスライド（A1サイズ）に，文字・画像等を一度に貼る方法。
 - A4～A3サイズのスライドに，一部分の内容を多数作成し，印刷したものをA1のパネルに貼る。貼り付け順・向きを最終ページの次に記述すること。
- ・当日，教室の壁にポスターパネルを貼っておくので，発表の時間（50分間）には，各パネルの前で，教員や他班メンバーからの質問に対応する。少なくとも1名は自班のポスター前に待機すること。



(a)1枚の図



(b)A3を4枚



(c)A4を8枚

図 ポスターの作成例

- ・各サイズのファイルについては，ホームページにサンプルを置くので参照すること。

<http://godos2.daido-it.ac.jp/kpage/sumi/poroj/proj.htm>

概要（2ページ）について

- ・概要については、Wordで作成し、印刷したものを12月15日（金）12:00までに、事務室へ提出する。中間発表と同じ書式で作成する。
- ・概要についても全員が責任を持って、相談して作成すること

発表用パワーポイントと、発表について

- ・パワーポイント（発表用）は、当日、USBフラッシュメモリ等で持参する。
- ・1分1枚程度を目処とし、スライドが増えすぎないように注意する。
- ・発表時間が8分、質疑2分である、スライド8~12枚程度
- ・時間厳守である。発表練習は必ず行い、対応すること。
- ・発表は1名が全部行ってもよいし、数名が交代で行ってもよい。
- ・これまでの調査で得られた内容の概略を盛り込む。
- ・聴衆から見てわかりやすくなるよう、構成と内容を意識すること。
- ・内容が多くなりすぎないように、概略にスリム化したり、特定の一部内容（項目）に注目して詳報したりして、工夫する。
- ・中間発表の指摘事項・反省を生かすこと。

4. 発表（パワーポイント・概要）の構成例：

- ・タイトル部（タイトル、班名、メンバ名リスト）
- ・調査の目的 何を明らかにしたいのか・整理したいのか
どういうストーリー・シナリオを考えているか？
- ・調査内容と調査方法（の概略）
- ・各調査内容（調査結果・内容）の報告（これをメインとすること）
- ・まとめ・反省事項等

5. 各種締め切りの確認

- ・発表用パワーポイントファイルの提出
：12/18（月）9:00（当日朝）4101教室
- ・ポスター・パネル用パワーポイントファイルの提出（USBメモリで提出）
：12/15（金）12:00 4212室鷺見オフィス（事務室不可）
メール・添付ファイルでt-sumi@daido-it.ac.jpまで）
- ・概要（2ページ）の提出（印刷物で提出）
：12/15（金）12:00 4212室白水事務室

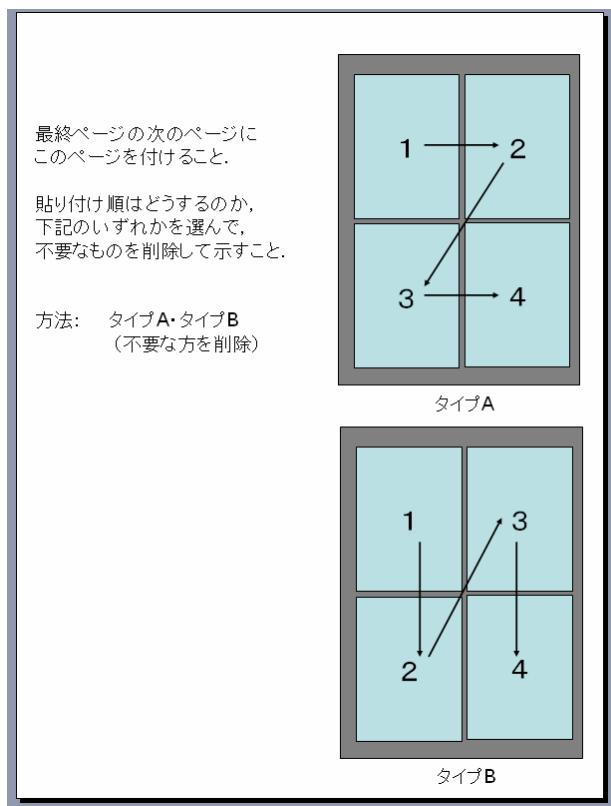


図 ポスター (A1 サイズ) に、A3 のパワーポイントスライドを 4 枚貼り合わせる場合

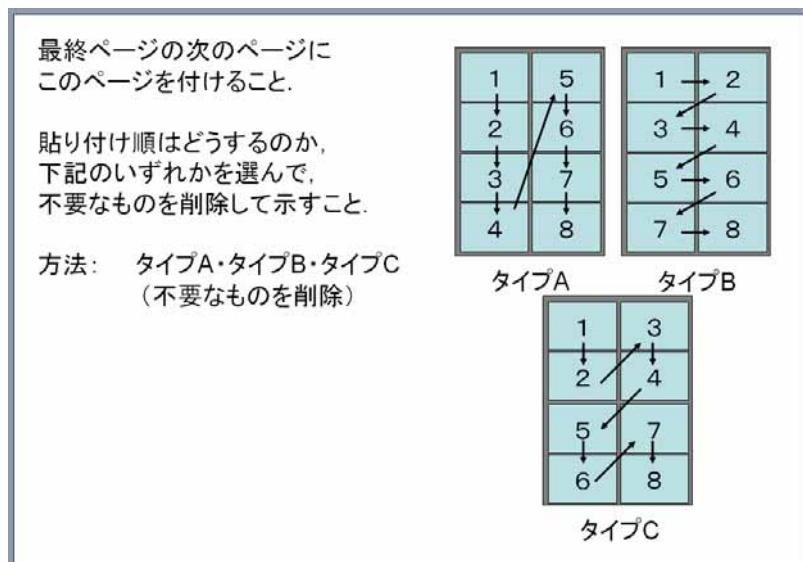


図 ポスター (A1 サイズ) に、A4 のパワーポイントスライド 8 枚を貼り合わせる場合

2006.12.18

最終報告書および分担表の提出について

都市環境デザイン学科

1. 提出期限等

- ・提出 : 1月9日(火) 17:00
- ・提出場所 : 鷺見オフィス(4212室)
- ・準備するもの : 最終報告書と分担表:印刷物とワードファイル(USBメモリで)

鷺見不在時には、

印刷物:4212室前の提出物ポスト

ワードファイル:4212室前においてあるUSBメモリを一時、学生ホールまたは4階PC室に持ち出してファイルをコピーし、戻す。

2. 最終報告書について

2.2 内容、作成方法

- ・グループで1つのファイルをWordで作成する。
- ・ホームページに報告書のフォーマットのファイルを置くので、ダウンロードして使用して良い。
<http://godos2.daido-it.ac.jp/kpage/sumi/poroj/proj.htm>

2.3 最終報告書の構成例:(フォーマットファイルを参照のこと)

- ・タイトルページ
- ・目次
- ・本文(内容)

はじめに(調査の目的など:何を明らかにしたいのか・整理したいのか
どういうストーリー・シナリオを考えているか?)

調査内容と調査方法

調査内容や考察(調査結果・内容・考察を、適当な章に分けて説明)

まとめ・グループとしての反省事項など

- ・参考文献
- ・謝辞(聞き取り調査等でお世話になった方など)
ここまで、グループで作成。10ページは軽く超えるはず。
- ・感想・各自の貢献内容(これは、各個人が1ページづつ作成する。)

(次ページへ続く)

3. 分担表について

各班の調査研究活動、発表準備、発表までの作業において、各班員が全体に対して分担した程度と、その内容について、下表のようにまとめ、報告すること。表は、(1)調査活動、(2)

発表（ポスター含む）, (3) 最終報告書, の3つについてそれぞれ作成すること。本分担表は、本授業のホームページ

<http://godos2.daido-it.ac.jp/kpage/sumi/poroj/proj.htm>

からワードのファイルをダウンロードし、作成すること。

提出方法・期限は「1 提出期限等」に示した通り。

分担率とその内容（各班員の貢献度）の報告書 評価内容は3種類あります

班(班)(1)調査活動			
学籍番号	氏名	分担率 (%)	分担した内容
		100%	

分担率の合計は 100%となるようにすること。

班（班） (2) 発表（ポスター作成も含む）

学籍番号	氏名	分担率 (%)	分担した内容
			以下省略

以上

班 (班)

「タイトル」

学籍番号	氏名
C060XX	

アドバイザ教員： 教授・助教授・講師

目 次

	ページ
1 .	1
2 .	2
2 . 1	2
2 . 2	4
3
3 . 1	...
3 . 2	...
3 . 3	...
4
4 . 1	...
4 . 2	...
5
6
7 . 参考文献	...
8 . 謝辞	...
9 . 感想，各自の貢献内容	...

(章番号等は，各自修正すること。)

1 .

(以下本文)

2 .

2 . 1

名古屋市の · · · ·

2 . 2

上記の内容に基づいて · · · ·

7 . 参考文献

玉井信行・水野信彦・中村俊六：河川生態環境工学，東京大学出版会，pp.102-106 .

名古屋市：「名古屋の川」<http://www.city.nagoya.jp/kurashi/shoubou/bousai/kaze/nagoyanokawa/>

8 . 感想，各自の貢献内容

（一人1ページづつ，各自が書くこと．文章で書く．箇条書きや単語の羅列はしない．）

「タイトル」

C060XX

感想：

私の班では・・・・

私の貢献内容：

この班での調査の中で，私は・・・・

報告日： 20 _____年_____月_____日

都市環境プロジェクト実習 グループ報告書

グループ：_____ 班 班長氏名：_____ 口頭報告者氏名：_____

本報告書のファイルは、本授業の HP <http://godos2.daido-it.ac.jp/kpage/sumi/poroj/proj.htm> からダウンロードできます。

報告日： 20 _____年_____月_____日

都市環境プロジェクト実習 個人報告書

グループ：_____班 学籍番号：_____ 氏名：_____

この1週間（この日も含めて）の活動の概要。

- どういう方法で、どういった内容を調査して、何が得られたのか報告する。（メインの報告）
- 予定・期待していた内容・情報が（どの程度）得られたのか。（遅れているか、問題ないか）
- 今後の調査の方針について、変更があれば変更の理由も含めて述べる。

この1週間の調査であなた個人が実施したこと、貢献したこと。

来週までの活動予定。

- 特に、学外での調査活動を含む場合には、日付・時間、場所等も具体的に報告すること。

報告日： 20_____年_____月_____日

都市環境プロジェクト実習 現地調査報告（行程・交通費）

グループ: _____ 班 報告者氏名: _____ (学籍番号 _____)

調査地および調査目的（聞き取り調査等の場合は、相手の所属部署・氏名を記すこと）：

調査メンバーおよび行程:

例	CXXXXX		1,040	大同町 (名鉄,290 円) 金山 (地下鉄,230 円) 市役所 [往復]
---	--------	--	-------	---

別紙4にも記入・押印して提出のこと

本報告書のファイルは、本授業の HP <http://godos2.daido-it.ac.jp/kpage/sumi/poroj/proj.htm> からダウンロードできます。

分担率とその内容（各班員の貢献度）の報告書

分担率とその内容（各班員の貢献度）の報告書
評価内容は3種類あります

班（班）（1） <u>調査活動</u>			
学籍番号	氏名	分担率 (%)	分担した内容
		100%	

分担率の合計は100%となるようにすること。

班（班）（2） <u>発表（ポスター作成も含む）</u>			
学籍番号	氏名	分担率 (%)	分担した内容
		100%	

分担率の合計は100%となるようにすること。

分担率の合計は 100% となるようにすること。

平成 18 年度後期
都市環境プロジェクト実習 マニュアル集

作成：都市環境デザイン学科
担当：大東憲二・酒造敏廣・堀内将人・鷺見哲也